

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>【教育目標】 「私は挑戦する、夢を実現するために」</p> <p>【目指す生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢に向かって努力し、協働する生徒</li> <li>・自己と他者を認め、人の心の痛みがわかる生徒</li> <li>・課題に気づき、解決するために行動する生徒</li> </ul> <p>【教師の目標】～職場のモットウ「元気に、明るく、楽しく」～</p> <p>ア 生徒一人ひとりを理解し、個性を知り、伸ばす教育を実践する。</p> <p>イ 学習の基礎基本から、発展させて生徒をワクワクさせる。</p> <p>ウ 生徒・保護者・地域の期待を理解し、連携して目指す生徒像の実現に努める。</p>
---

<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>【重点目標】 ～「良い学校」であるために～</p> <p>ア すべての教育活動において「魅力ある人材の育成」の具現化</p> <p>イ すべての校務において課題の共有と課題解決の推進</p> <p>ウ 教育環境の充実と活用による効率的・効果的な教育活動・校務対応の推進</p> <p>エ 創立以来の歴史に学び、この1年を大切に良い学校を実現</p> <p>【教育方針】</p> <p>ア 地域に学び、学びを地域に還元、地域に開かれた学校づくりを推進。</p> <p>イ 1人1台端末とICTを活用した教育活動を推進し、より効果的な学習指導を実践。</p> <p>ウ 目標を高く持ち、チャレンジ精神旺盛な人材を育成。</p> <p>エ 生徒自身による主体的、創造的な学習活動と特別活動を推進。</p> <p>オ 部活動を推奨し、生徒の心身の鍛錬と活気溢れる学校生活を実現。</p> <p>カ 図書館活用と読書による、読む力・考える力・判断する力・表現する力を育成。</p> <p>キ 生徒への指導と支援により、安心して過ごせる学校づくりを推進。</p> <p>ク 自己肯定感及び他者の個性を理解する心を醸成。</p> <p>ケ 自然との触れ合いや地域との人との交流から、自然と郷土を愛する心を育成。</p> <p>コ 各教科の学びや国際交流活動において、SDGsへの取組みを推進。</p>
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	魅力ある学科づくりの推進	令和7年度の入学学生は令和6年度の入学学生(3学科)78名を超える80名を目標に魅力ある取組みを実施。	中学校や地域との連携を更に深め、芦高教育の魅力地域へ発信し、各学科の特色を活かして生徒募集に繋げる。ICTを活用した学校PR動画(YouTube)の制作と配信。地域みらい留学へ参画し、学校の活性化を図る。	A	農業科、林業科、福祉科それぞれの特色を生かし、地元の小・中学校や地域と連携を図り、ホームページやSNSを活用し、本校の魅力を発信することができた。地域みらい留学に参画し県外からの生徒募集につなげている。来年度から入学予定で、様々な受け入れ態勢を整える必要がある。
	業務改善	校務における課題解決の推進	各校務分掌の最低1つは課題に取組みチームで協働して問題解決を進める分掌組織。	年間反省をもとに校務分掌で課題解決の取組みを具現化する。町の支援事業を活用したレベルアップ事業と学科の専門性を活かした地域との連携を深める。各学年・		それぞれの校務分掌で課題を共有し、ICTなどを活用し、チームとして課題の解決を図った。町の総合支援事業を活用し、これまで以上に地域と連携を深め、各学

			学校行事の見直しと業務の効率化。	学科、分掌における個々の経営感覚を高める。学校行事を精選と業務の効率化で働き方改革を推進し、新たな事業に取り組む。	A	科の専門性の向上につながる事ができた。それぞれが学校経営に参画する意識を持ち、業務を推進することで、業務の効率化にもつながった。また、新たな事業にも積極的に取り組むことができた。
	働き方改革	時間内での効率的・効果的な校務処理の推進	業務超過時間昨年比5%減を目指す。1日10分の実勤務時間の短縮と情報伝達システムの有効活用。	職員朝会週1回の実施。毎月職員研修の時間を確保。年次有給休暇年間15日以上取得する。ICTを活用して会議時間を短縮する。	A	働き方改革や業務改善などについて職員それぞれが意識し、自分事として捉え、真摯に取り組んだことで、業務超過時間の昨年度比5%減を実現している。
	危機管理	豪雨等の災害を見据えた防災型教育環境の整備 不祥事根絶の徹底	不測の事態に対応できる機動性の高い学校組織の再編。 不祥事ゼロを目指し、地域から信頼される学校づくりを目指す。	自然災害等における防災行動の確認と避難訓練の実施。月に2回、芦北高校不祥事防止確認事項を朝礼で確認し、不祥事根絶の意識を高める。短期集中型の効果的な職員研修を実施する。	A	避難訓練も適切に行われ、学校全体で防災活動の確認ができた。昨年同様地元の消防団と連携し防災訓練を行うことができた。 毎月2回職員朝会で、不祥事防止の確認事項を確認するとともに不祥事防止の研修も効果的に実施できた。
学力向上	授業力向上のための取り組み	授業の充実	校外の各種研究授業や講習会に年1回以上参加して、指導力の向上や技術の習得に繋げる。 授業におけるChromebookの活用を積極的に行う。	各教科で主体的対話的で深い学びを重視した授業改善を行い、わかる授業の実践に努める。実技・実習を伴う教科・科目では複数の教師の協働による指導力向上と技術の習得及び安全確保に配慮する。 Chromebookを活用した学習保障を行う。	B	全教科において教育課程研究協議会に参加し、新学習指導要領及び授業改善、評価等に関する研修を受けた。実技・実習を伴う教科・科目では複数の教師の協働による指導をすることができた。授業でChromebookを活用した共同学習やChromebookの毎日の持ち帰りで学習保障ができた。
	授業力向上のための取り組み	授業の充実	公開授業週間を年2回、授業研究会を各グループ年1回実施する。 各教室に設置している電子黒板機能付プロジェクトを有効活用する。	研究授業では、「主体的・対話的で深い学び」の実現と電子黒板機能付きプロジェクト・Chromebook等のICTを活用した授業を展開することで、生徒の興味・関心を引き出す。	A	校内での公開授業週間を年2回実施し、指導力の研鑽ができた。芦北町の総合支援事業で導入した各教室の電子黒板とChromebookを授業で積極的に活用できた。
	「確かな学力」の定着	自ら学ぶ学習の奨励	生徒一人あたり年間10冊以上の読書量の確保を目指す。 毎月1回、校内漢字テストを実施する。 生徒はそれぞれに1時間以上の家庭学習量を確保する。	朝の10分間読書の充実を図る。 月1回の漢字テストの実施と事前学習に力を入れる。 家庭学習時間確保のため課題を工夫する。 長期休業期間中、課題を出し学習させる。 町の支援事業で導	B	考査期間中も含め、朝の10分間読書を実施し、朝読書が充実した。漢字テストは、学年が中心となり成果を上げ、基礎学力向上につながっている。長期休業中の課題は各教科で計画的に出題されている。スタディサプリは進学ゼミや公務員指導

				入したスタディサ プリを学科・学年及 び教科で活用する。		で積極的に活用されて いる。
キャリア教育 (進路 指導)	進路目標の 早期 確立	進路情報の収集と 活用	生徒の進路選択 の情報源となる 校内用ポータル サイトの内容を 拡充する。求人 検索システムの 運用と改善を図 る。	細かな進路希望 調査、生徒一人ひと りとの進路面談を 通して、進路希望 を具体的に把握し 、必要な情報につ いて拡充する。	A	職安の検索システム ともリンクして、場 所・時間を問わず利 用でき、利便性が格 段に向上した。各種 様式もDLできるよ うに改善した。
		進路保障	2月末には、希 望進路達成10 0%を目指す。 全職員による面 接指導の充実。	進路希望調査を基 にした進路指導や 企業求人開拓の実 施、進学支援体制 の確立や個別指導 の充実を図る。	A	関係機関と連携しな がら課題を持つ生徒 に対しても細やかな 支援・指導を行うこ とができた。
	資格取得の 奨励	年間実施計画の提 示と推進	生徒一人ひと りが進路実現に繋 がる資格取得に 2つ以上挑戦で きる環境づくり を目指す。	各学科や学年、ク ラス、教科の協力 のもと資格試験の 周知や勧誘を行い 資格取得の学習支 援体制を確立する 。	A	3年生で英検準一級 に合格する生徒が出 るなど、生徒の資格 取得への意欲は旺盛 で、昨年度以上の成 果が得られている。
生徒 指導	命や人権を 尊重する豊 かな心の育 成	社会規範意識の醸 成と安全安心な教 育環境の整備	ルールや校則を 守り、生徒自身 の望ましい社会 生活を実現する ために、判断力 と自立心の向上 を目指す。 SNS等による トラブルを防止 する。 交通違反・交通 事故0を目指 し、交通安全教 室を実施する。	分かる指導、丁寧な 言葉による指導を徹 底する。 関係機関と連携し、 学びの機会を確保 する。 情報モラル教育・交 通安全教育等につ いての講演会等を 計画する。 交通安全の視点か ら、自転車通学生の ヘルメット着用10 0%とする。	B	・関係職員による生 徒への丁寧な関りに より、生徒間トラブ ルなど問題の重大化 を未然に防ぐことが できた。・スタント マンを活用した交通 安全講習会を実施し 重大な交通事故は無 かった。・所轄署に よるSNSの安全利用や 闇バイト防止の講話 で生徒は安全な生活 を考える機会となっ た。・生徒の安全意 識を高めることによ ってヘルメット着用 率が100%となる よう引き続き取り組 んでいきたい。
	自ら考え、 学び、夢に 向かって努 力する主体 的な態度の 育成	基本的な生活習慣の 確立とコミュニケ ーション能力の向 上	夢に向かって努 力する生徒、さ わやかな挨拶が できる生徒、人 の心の痛みがわ かる生徒の育成 を目指す。	生徒会が主体となっ た行事運営や委員会 活動の活性化を図 る。 学級担任を中心とし た、生徒の個性と長 所を伸ばす指導・支 援のための情報提供 を行う。	A	・生徒会の生徒を中心 とした学校行事(体育 大会、文化祭)、に取 り組み、生徒主体の充実 した内容にすることが できた。・部活動にお いては、運動部、文化部 にも多くの生徒の活躍 が見られた。・学習成 果の一つとして、郊外 の各種発表会、競技会 等で生徒の活躍がみ られ、それが生徒達の 自信に繋がっている 様子が感じ取れた点 が良かった。
人権教 育の推 進	推進体制の 確立と研修 の充実	教職員の実践的指 導力の向上	全職員が校外研 修会へ1回以上 参加し、意識向 上と指導力向上 を図る。	職員への研修案内 と参加呼びかけを 定期的に行い、全職 員校外研修に参加 する。	B	参集型の研修が増え、 積極的に研修案内を 行うことができ、のべ 48名が校外研修に参 加。人権教育の校内研

				LHR等での指導力向上に向けた事前研修の充実を図る。		修では、県のDV未然防止教育事業を活用し、充実した。 人権LHRの内容を教育相談部と学年部で検討し、昨年度より生徒の実態に合わせた内容を実施することができた。
	すべての教育活動を通じた取組の強化	課題を抱えた生徒への支援と対策	各校務分掌と連携を図り、生徒の実態を把握し、いつでも、どこでも、すぐに対応できる職員の体制作りを行う。	担任・学年会・教科会・特別支援教育・教育相談の各担当者との連携を図り、研修をとおして全職員の共通理解を深め実践力を強化する。	B	教育相談部や生徒部と連携し、課題を抱える生徒の情報共有、支援について実践することができた。
	命を大切に する心を育む 指導の充実	命の大切さを 実感させる教育の 推進	命を大切にし、 自尊感情を高め、 お互いを理解し 合い、認め合う 心を育てる。	教育活動全体を通じて全職員が自分の言葉で語り、生徒と共に互いの信頼関係を築く土台作りをする。人権週間、人権集会を実施する。	B	12月に人権週間を設定し、人権委員による昼休み放送（自分を大切にすること、平和や愛を伝えるメッセージ）・県こども人権集会への出席などの取組を行った。
いじめの防止等	いじめ根絶の啓発・推進	いじめを絶対に許さない学校づくり	人の痛みがわかる生徒の育成を目指す。全クラスで生徒面談を学期1回以上行い、情報収集と共有に努める。	いじめ防止に関する講話を実施して、生命や人権を大切にすることを育む。「目指す生徒像」「いじめを許さない宣言文」を教室に掲示し、啓発する。	B	いじめ防止につながる内容の講話（SNS講話）を実施した。生徒総会（6月）および人権週間（12月）に「いじめを許さない宣言文」の確認を行った。
	いじめの防止と早期発見	いじめ防止や早期発見・早期対応	心のアンケートを年3回実施して、いじめの実態を把握し、対策を早急に取り。いじめの把握においては、関係機関と連携を密に取り合い早期対応に取り組む。	心のアンケート結果を基に、実態把握に努める。（年3回のアンケート実施）いじめ防止等対策委員会を年3回実施し、外部専門家から指導・助言を仰ぎ、取組についての検証を行う。	A	心のアンケート実施後、1時間以内に状況把握・報告とスピーディな対応ができた。アンケート以外でも、関係機関と連携し、適切に対応することができた。いじめ防止等対策委員会において、気になる生徒について外部専門家からアドバイスをいただいた。
教育相談	特別支援教育	支援対象生徒について早期の支援開始	保護者、中学校、職員から得た情報を迅速に集約する。生徒理解の職員研修等を学期に1回行い、全職員の共通理解を図る。保護者の理解を得て、支援を開始する。	「保護者の気づき」「中学校訪問記録」で新入生の実態を4月初旬までに把握する。「気づきメモ」週間、教科担当者会をふまえ、個別の教育支援計画を作成し、生徒理解研修を実施する。	A	新入生の実態把握に努め、年度初めに生徒理解研修を行い、職員間での共通理解を図った。新入生の支援対象生徒については、個別の教育支援計画・指導計画を作成し、その後の生徒理解研修に結びつけることができた。
		支援対象生徒の進路保障	支援対象生徒（3年生）の進路決定100%を目指す。1・2年生の進級を目標に、あらゆる場面で支援を行う。	担任、進路部、教育相談部、関係機関と連携を取り、保護者の理解を得て進めていく。	B	進路指導部と協力し、支援対象の3年生については、就職支援を行うことができた。しかし、一部の生徒の就職先への引継ぎについては保護者の了解を得ることが出来なかった。

	教育相談	生徒の実態把握と課題解決	欠席が続く生徒、その他精神面への支援が必要な生徒の課題解決を図る。職員が一人で抱え込まないための相談体制の充実を図る。	定期的に教育相談校内委員会を開催し情報交換を行う。スクールカウンセラーを活用し課題解決に向けた方策を検討する。必要に応じて医療機関や福祉事務所等と連携を図る。	A	教育相談部で情報交換を行い、生徒の状況把握に努めた。また、教育相談校内委員会を実施し情報共有ができた。スクールカウンセラーにはカウンセリングのほかに職員への助言、必要に応じて関係機関等との連携を図った。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールをはじめとした地域連携の体制づくり	災害時の地域連携体制づくり	学校運営協議会を年間2回開催し、災害時における地域連携の基本計画を作成する。	町との連絡体制、地域住民の受入、避難所運営、災害経験を活かした地域合同防災訓練への参加等を検討する。また、町の方針に基づいた避難所運営についても検討する。	B	学校運営協議会にて学校での災害時の対応計画を検討した。地域合同防災訓練は今年も実施できなかったが、実施に向けて方法や実施時期の検討をしていく。
		平常時の地域連携体制づくり	学校運営協議会時に、平常時における地域連携に関する具体的方策を協議する。	佐敷小・中学校及び芦北支援学校本校・佐敷分教室との交流活動、乙千屋地区住民の参加型交流活動を検討する。	A	各学校や佐敷分教室との交流学习も例年以上に、積極的に行うことができた。現在交流している学校以外の学校との交流も検討している。芦高祭では、地域方々との交流を図ることができた。
		芦北町芦北高校総合支援事業の有効活用	芦北高校総合支援事業を有効に活用する。	各事業の趣旨を踏まえ、十分に効果が上がるよう実践する。特にレベルアップ事業の活用と、生徒の進路決定につながる活用に力を入れる。	A	町の総合支援事業を有効活用し、各学科・各教科特色のある取組を実践し専門的な学びの深化につなげた。生徒の進路実現に向けても大変有効な取組となった。レベルアップ事業とそれ以外でも本校の教育活動全般において有効に活用し、活動内容や魅力を全国にPRすることができた。

#### 4 学校関係者評価

- (1) 学科の特色を活かした取り組みがなされ、公務員合格や介護福祉士の資格取得、また大学進学など成果も上がっている。生徒たちの様子を見ている範囲でも、保護者の願いに応えていると思う。
- (2) 入学生の定員確保の対策については、少子化の中で非常に厳しい問題であるが、中学校や地域と連携を深め、芦北高校に入学したいと思えるような特色ある取り組みや魅力を、ICT等を活用し、積極的に情報発信して欲しい。地域みらい留学での県外からの生徒募集は素晴らしい取り組みでよく努力している。
- (3) 学校の魅力化に向けて、様々な工夫がなされている。基本方針や学校運営が正しい方向性を示していることは、生徒数の増加や就職数や進学数と生徒たちの明るい様子が明らかにしていると思う。魅力の発信についても継続的に行われていて、とても大切なことである。
- (4) 進路指導においては、進学、就職にかかわらず生徒にとって生涯に関わる重要な問題であり、適切な進路指導が求められる。
- (5) 介護の分野においては、社会福祉施設等で働く介護職・看護職などの仕事は、「人の命を支える」なくてはならない仕事であり、人の痛みが分かる心優しい生徒の育成を目指し、更なる人権教育の推進を期待する。

- (6) 介護実習の受け入れに当たっては、コロナ禍ではあるが感染防止対策等を行いながら積極的に受け入れを行いたいと考えている。
- (7) 学習活動において読書は、国語力や語彙力のアップに繋がるだけでなく、文章を書く力が身につく、また、想像力が高まり、色々な話題にも対応でき幅広い知識を習得できる場でもある。漢字テストとあわせて実施することにより基礎学力の向上にも繋がり、是非これからも実践して欲しい。
- (8) 生徒への指導面では、LHR（人権教育）や情報モラル教育の必要性を強く感じた。特に「いじめ」や「ネットトラブル」等における対策など喫緊の課題と思われる。特にインターネット等の普及により、スマートフォンやSNS等の情報モラル教育の充実を図る必要があると感じる。
- (9) 芦北町の総合支援事業により、これまでに電子黒板などが全教室に配備され、ICTを活用した教育活動が実践されている。県内でもこのような取組を行っている市町村は少なく、生徒をはじめご家族にとっても有り難く、芦北町独自の政策としても高く評価されている。芦北町や芦北高校を支援する会の活動は素晴らしく、地域の思いが伝わってくる。今後も引き続き、地域と連携を密にし、地域に開かれた学校経営に期待する。
- (10) 地元小学校との交流を強化していく取組はとても良い。特に、小学校低学年の児童に「あんなお兄ちゃん、お姉ちゃんになりたい。」という思いを持ってもらうことが、近未来の芦北高校の基盤づくりにもつながる。
- (11) 「地域とともに森を育て川と海を育む」をテーマに、アマモ場やホテルの再生活動など、森、川、海の三側面から地球環境改善活動に取り組んで、地域貢献とともに環境教育の実践にも繋がっている。全国的にも高い評価を受けている芦北高校独自の取組であり、今後も継続した取組を期待する。
- (12) 登下校時、校門付近の道路での3列歩行とスマートフォンを使いながらの歩行は、地域の方の自動車との接触の危険性がある。
- (13) 「地域と共同での避難訓練」の実施について、学校から申し出があり嬉しく思った。

## 5 総合評価

- (1) 教育目標「私は挑戦する、夢を実現するために」を掲げ、生徒が主体的に取り組む学習活動を実践し、家庭、地域と連携を深めながら目指す生徒像の実現を実践することができた。
- (2) 生徒募集では、年度当初に設定した目標には少し届かなかった。しかし、在校生・保護者・職員の学校評価アンケートでは8割以上が概ね良好との回答であり、本校教育が肯定的に受け止められている。
- (3) 1人1台端末及びICTを活用した学習の拡充で、主体的・対話的で深い学びが実現し、生徒の各教科への興味関心が向上し、分かる授業に繋がった。
- (4) 部活動の活性化が学校の活性化に大きく貢献している。本校と地域スポーツクラブ活動との連携もあり、新体操部、相撲部が全国大会出場を果たした。インターハイでは新体操部が団体で3位入賞、相撲部が個人で5位入賞と好成績を収めた。本校のみならず地域を盛り上げることができた。
- (5) 職員の細やかな指導、ICTを活用した効果的な進路指導で、国公立大学へ2名、公務員へ11名進むなど、今年も素晴らしい進路実績を残すことができた。就職内定率も100%に近い数字を達成した。夢の実現のため積極的に挑戦し、これまでにない進路を実現した生徒も数名出た。
- (6) 人権教育では「自分と他人を認め、人の心の痛みがわかる生徒」の育成を目指し、人権尊重の精神を高める多くの取組を行った。また、心のアンケートや個別の面談により生徒内面の把握に努め、職員間で情報の共有を積極的に行った。いじめや生徒間のトラブルには、早急に対応し、事案の早期解決を図ることができた。
- (7) 生徒部、教育相談部等が積極的に情報を共有し、SCやSSWなど外部の関係機関とも連携し、誰一人取り残さない取組を実践することができた。
- (8) 芦北町の芦北高校総合支援事業を有効活用し、生徒の各種活動で結果を残すことができた。学校農業クラブ連盟全国大会岩手大会において、農業鑑定競技会（森林の部、果樹の部、野菜の部）で3名の生徒が優秀賞を受賞した。その他、九州森林管理局主催森林・林業技術交流発表大会で最優秀賞。また、SDGS QWESTみらい甲子園熊本県大会で最優秀賞を受賞し、全国交流大会に出場するなど、芦北高校の魅力を全国に発信した。
- (9) 芦北町や企業などと「地域活性化に関する包括連携協定」、「芦北地域におけるアマモ場等再生に関する連携協定」を締結し、地域課題の解決のみならず、地球規模での課題解決に取り組んでいる。
- (10) 全国福祉系高等学校長会の事務局として第28回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会を成功裡に終えることができ、全国の福祉教育の発展に貢献した。
- (11) 芦北支援学校佐敷分教室と連携し、文化祭、体育大会、長距離走大会など様々な行事を協働で実施し互いの学びを深化させた。
- (12) 地域防災教育の一環として、これまでの防火訓練に加え、地元消防団を招き初期消火の際に使用する室内消火栓及び消火器の使用方法を指導いただき、生徒も実際に体験した。生徒の防災意識の向上と地元消防団への理解に繋がった。

## 6 次年度への課題・改善方策

- (1) 芦北町の総合支援事業を受け、生徒のレベルアップと町への還元をテーマに、生徒のチャレンジ精神を刺激する魅力的な取組をさらに進める。
- (2) 災害時の地域との避難所の協力については、現在検討中である。災害時の対応に当たっては、「平常時の対応」、「緊急時の対応」に分けて検討する必要がある。令和2年7月豪雨災害の経験を踏まえ、特に平常時の対応が重要になってくる。日頃から、危険個所の把握や避難訓練、防災教育等を実践し、被害を最小限に留めるためにも、芦北町や地域との連携は必要不可欠である。
- (3) 専門教育では、各学科間の連携をさらに進め、地域や中学生とその保護者のニーズを的確に受け止め、地域と連携した教育活動を展開し、入学者の増加に繋げる。
- (4) 進路指導や部活動などで結果を残しながらも、働き方改革の観点から効率的で効果的な働き方を模索する。
- (5) 芦北町からの総合支援事業の現状分析を行うとともに、今後の取り組みが生徒募集に繋がる事業へと発展していくよう様々な改善を行っていく。
- (6) 地域みらい留学の取り組みをさらに加速させ、域外からの入学生の確保に努める。そのために、行政や企業、地域と連携し下宿先の確保を早急に進める。また、次年度より入学する地域みらい留学による入学生の支援体制も早急に進める必要がある。
- (7) 各学科の取り組みとSDGsを組み合わせ、教育的効果の更なる向上と学校の活性化を図り、本校の魅力を全国にする発信する広報活動に全職員で取り組む。
- (8) 生徒募集に繋がる学校パンフレットの作成、HPの更新、SNSの活用など定員確保に向け、様々な方面から検討を重ね、実施可能な取り組みを全て実践する。

